第四卷 六月號

婦人運動



職業婦人社發行

女教育家第一人者の新記錄

かの大阪朝日東京朝日の兩新聞紙上に天下の視聽を集めし事ある小說歸へる日の作者は卽ち本書の著者である。
先生は敎育家殊に女流の初等敎育家として第一人者であると同時に又閨秀作家の旗頭である。而して我が國新進婦人のリーダーたるべき抱負と識見とを有せられる稀に見る天才である。先生は型に囚はれぬ人間味豐かな眞の良敎育家である。
本書は此人間味豐かなる先生の**生命の記錄**であり、血のにじむ程の**體驗の記述**である。

奈良女子高等師範學校訓導　**池田小菊女史著**

私の敎育記錄

忽四版

【内容】

時代
□事實と眞實　□盜まれて行く子供　□敎育の渾沌　□時代は過ぎて行く　□敎授法時代から學習法
□時代を過ぎて　□論理の力　□再び事實と眞實　□世界は刻々に狹りつゝある　□時代に逆ふ者

人間
□敎育といふ仕事が私に小說をかゝせた　□眞人間の相　□享樂生活　□革命の正體　□婦人問題の問題

敎育
□今の敎育は、人生と逆樣に歩いてゐる　□今の敎育は、最初から精算である　□今の敎育には、個性がない　□方法の改造は、一種の技巧のみである　□大まかな、大膽な、子供の直感的生活を生せ
□探求的、熱狂的な子供の享樂的仕事を生せ　□眞の學習は、眞劍な獨りの學習になければならぬ

敎師
□一先づ脫皮しなければ生きられぬ現代の敎師　□生を護るの熱あれ　□生を護るの覇氣あれ

四六版四〇〇頁
布裝頗美本箱入
定價二圓八十錢
送料十八錢

東京・大阪　**東洋圖書株式合資會社**　發兌

(直接註文一手扱)　大阪市東區上本町一丁目・振替大阪三九五五六番

婦人運動　六月號　目次

巻頭雜記

大雨のあとのすが〴〵しい朝の空氣をすひつゝ、大きな呼吸を一つして巻頭雜記のペンをとります。昨日よりは今日、今日よりはあすと、この頃のわが庭の草や木は、毎日目に見えてすく〴〵と伸び立つてゐます。

大變な勢ひだな。

毎日のやうに、かう感嘆してその成長にみとれてゐます。

□

昨夜、國際勞働協會の集りでイギリスで或る雜誌社が、男と女に、今度生れ代つて來るときは、男になりたいか、女になりたいか、と訊れたところ、その回答のみんなが、男も、女も、男になつて生れて來たいと云ふのであつたさうな、といふことで女の割の惡さについて話に花が咲きました。

□

市川源三氏が、その女學校の生徒に同じ質問を出した處、これ又、男に生れて來たい答案ばかりだつたさうです。

そして氏は、長い間の自分のして來た女子教育は、これですつかり失敗してゐたことを考へさせられたと云つて、悄氣てゐられたさうです。割の惡い、といへば、ほんとにこれまでの女の生活は、みぢめで、馬鹿らしくて、不甲斐ない限りでしたもの。

□

然し、近年、若い女の人たちが自由に伸び〴〵として來たこと、女の考へ方、行ひ、全てがどん〴〵舊來の垣をふみ越えてそれ〴〵の途へ進まうとしてゐる勢ひは、誰だつてみとめないでゐることは出來ないでせう。

この初夏の、すばらしい勢ひで伸びのびてゐる草や木のやうな勢ひを、私たちは、いまの女の上にみることが出來ます。

□

この力を、守り育てゝ、そして、この力を一つにあはせて、その勢ひで押してゆくのであつたら、女の世界は案外すら〴〵と展けてゆくにちがいないのです。（おく）

この雜誌の基礎をかたくするために、**誌代を前納**して下さい。明日といはず今すぐに、未拂ひのお方は送金して下さい。どうぞ、**一冊分の誌代をひきうけて下さ**つて、この仕事のために、私たちが思ひきり働けるやうにお心添下さい。

社會の移り變り、とともに、私たちの社會生活は愈々複雜になつて、女としても、長い間の家庭的な籠居から目ざめて社會的に考へてみなければならぬこと、働かねばならぬことがどし〴〵多くなつて來てゐます。

この間に立つて本誌は、全ての婦人のために忠實な**代辯機關**となり、**取次機關**となり、**社會への突擊前進隊**ともなつて働いてゆきたいと思つてゐます。

毎月、出來上りがあんまりおくれたので、思ひ切つて印刷やを變へました。初めての不慣れから今月もおそくなるやうでは大變だと思つて、いつもより頁を少くしておきました。

▼誌代はすべて前納にして下さい

前納誌代

壹部　貳拾五錢（郵税五厘）
半年分　壹圓四拾錢
壹年分　貳圓八拾錢

送金法

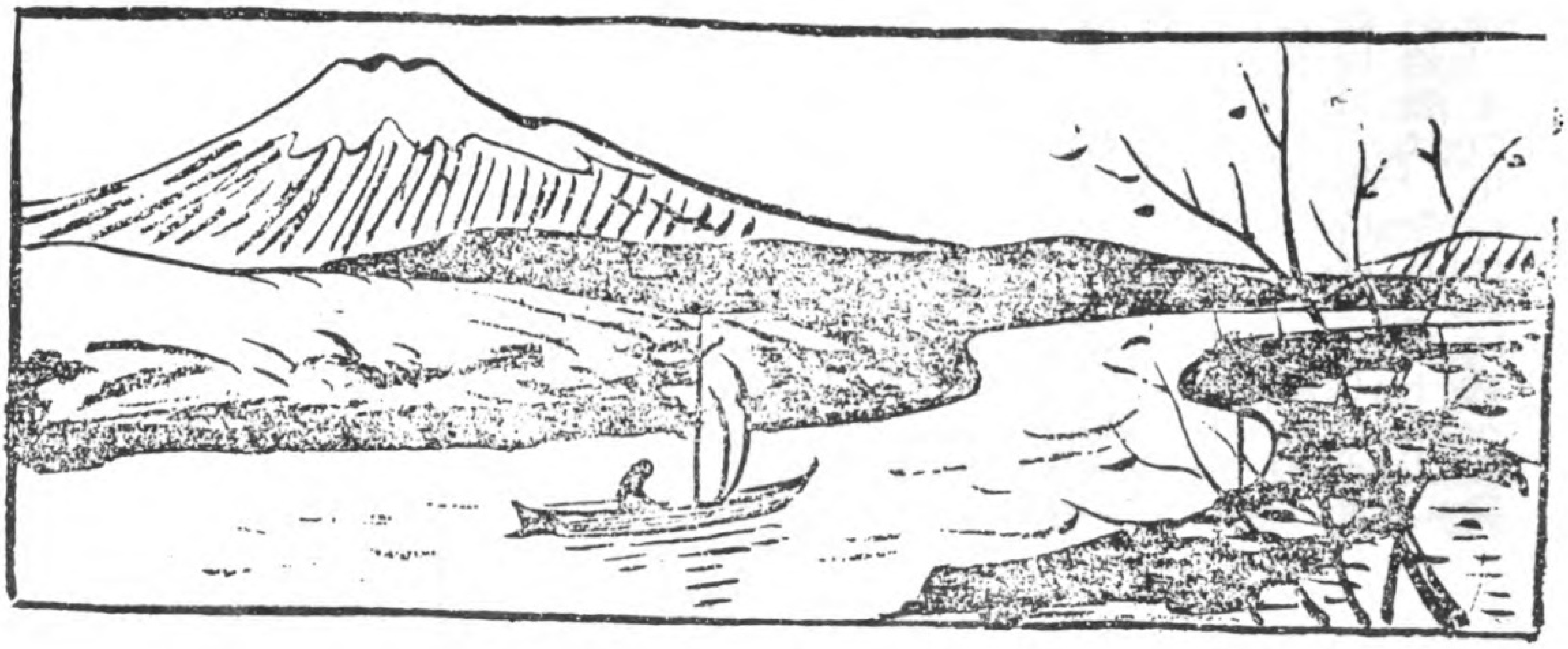
誌代は必ず前金の事
送金は振替が一番便利です
誌代の受取證は別に出しません
雜誌發送を以てこれに代へます

大正十五年五月廿八日印刷納本
大正十五年六月　一日發行

發行編輯兼印刷者　奥むめお
東京市外蒲田町女塚二四七番地

印刷所　東邦社
東京牛込區飯田町六ノ二四番地

發行所　職業婦人社
東京市外蒲田町女塚二四七番地
振替東京六四〇一六番



母子扶助法制定促進會の成立に就て

こんど婦女新聞社が發企して、母子扶助法を制定する運動をはじめられたことは喜ばしい限りである。

この運動の目的とするところは――子供を抱えた寡婦や、これに等しい境遇にある母親が貧しいために、その子供を養育することが出來ない場合に、これまでならば養育院とか慈善會とかの救濟機關に送つて保護するのを常としてゐたのであるが、子供を暖い母のふところから奪はずに、そして、救濟機關に入つてゐた子供だといふ風な社會的精神的打擊をも與へる事なしに、家庭の中で自然な生長をさせやう、そのために必要な養育費を、政府から出させやうとするのである。(婦人運動三卷四月號に、この法案の悉しいことを紹介しておいた。)

然し、目を轉じて考へて見ると、今日の社會では、極貧のものばかりでなく、大多數の母親たちは、家計のやりくりにおはれて、充分に子供を愛撫する暇をもつことが出來ないでゐる。逝つたエレンケイ女史は、言葉を盡して「子供と母親の權利」を說いたけれども今日、子供をもつ喜びよりも、足手まとひな子供のあるための負擔つ過勞に泣く母親の方がどれだけ多いか知れない。

私たちは、社會が、すべての母親をして、喜んで、そして、安んじてその子供の養育にありつたけの愛情を注いでゆくことが出來るやうになるまで――母親と子供の權利を完全に掌握するやうにこの運動の精神を徹底させなければならぬ。

時評

奥むめお

總罷業と英國婦人の活動

英國のゼネラル、ストライキが勞働者側の敗北に終つた事は、いろいろの意味で深く考へさされることが多い。それと同時に婦人の立場としてわれ〳〵が見逃す事の出來ないのは、總罷業當時に於ける英國婦人の活動である。

「總罷業中のロンドンで最も目ざましいのは何といつても婦人の活動である。政府の召集にはせ參じた義勇勞働者の總數は、今日では十萬人に遂したが、その中には各階級を網羅する多くの婦人がゐる。彼等は自動車の運轉手、地下鐵道の車掌、新聞賣、牛乳配達など、いろ〳〵な仕事を、命令に從つて、骨身おしまず男々しく働き罷業者と戰つてゐる」と政府側の新聞は報じてゐる。先年の總選擧のとき婦人の投票を多數に得て奇勝をはくした現政府は今度も婦人を味方にする爲めに、坑夫側の要求が通ることになれば生産費が高くなり、當然石炭が値上げされて、その結果はたちまち困るのは婦人達である、と云ふ巧妙な宣傳で、さうでなくつてさへ生活費の騰貴に惱んでゐる主婦達を抱き込んでしまつたのである。かくして四月中旬には、帝國及常識婦人同盟と云ふ反動團體の大示威行列がロンドンで行はれた。それには二萬人以上の婦人が參加した、然も「鑛夫の妻」と云ふ名の許に「憲法と常識」とにそむいた總罷業の「暴擧」に反對するといふ宣言を發表した。それに對して多數の勞働者側の婦人も、また負けず劣らずに必死となつて罷業者のために活躍を始めた。

全國少數派運動の大會では、多數婦人代議員の提出によつて、上記の「婦人同盟」は坑夫の妻には關係のないものである事を決議として發表し、勞働黨婦人部は、全國に檄を飛ばして、全國の妻に對し『婦人同盟に警戒せよ、その出資者が誰であるかを問へ、諸姉の夫の屬する組合と同一の步調をとれ、裏切者でなく勞働者ある事を記憶せよ』と警告したさうして二十萬人の婦人黨員を有する同黨では、鑛山地方至る處に、そ

の主催の許に婦人の大示威運動が起された。又同黨の婦人部では『炭坑業の破産狀態は勞働者の責任でなく莫大の利益を貪る資本家的經營の結果で、之を國有に移せば、賃金も下げずにすみ、石炭も廉くなる』と、その機關紙で說いて、政府の逆宣傳に應戰した。

婦人の消費組合同盟もその大會に際して『諸君の背後に婦人あり』と云ふ激勵電報を送つて、全力を擧げて罷業に味方した。英國の無產團體に組織されてゐる婦人は、勞働組合に八十萬人、消費組合に百萬餘、勞働黨に二十萬、即今度總罷業の背後には二百萬の婦人の力が潛んでゐるのである。(無產者新聞による)

公娼制度の改善案

廢娼問題がとなへられ初めてから大分長いが、その具體的な運びが一向に捗らないのは何故であらう。さきごろ開かれた全國警察部長會議に於ける公娼制度の改善案も、結極羊頭を掲げて狗肉を賣る類に過ぎなかつたらしいのは、豫期した事とは云ひながら遺憾な事であつた。

其存廢問題に就いては、僅かに二人の廢止即行論者があつただけで、あとはみな「理論としては廢止すべきだが、現狀では私娼がふえるから撤廢は出來ない」と云ふ論に一致したといふ。保守的な思想の代表者である地方警察官の集りとしては怪しむに足りないとしても、其年齡の制限に於て、現法の十八歲といふのを國際條約に從つて二十歲に引上げやうと云ふ說に對して、十六歲に引下げた方がいゝと云ふ說があつたといふに至つては言語同斷である。

其他、年限の制度案の如きも、年限が來たら、同時に借金が消滅するものなら兎角、借金だけはそのまゝ付纏ふのだとしたら、反つてその結果は押して知るべく、又登錄の手續を簡單にして、本人の自由意志に基くや否やに重きを置くと云ふ項なども、誰が好きこのんで娼妓にならうと云ふ事を考へたならば、改善と云ふ言葉の洩す薄なさけを、誰か淚なしに考へる事が出來やうか。

娼妓に、客を自由に選擇出來るやうな權利を與へよなど云ふ項は、非常に結構だがこれでは肝心の公娼制度がなりたつまい。又飲食費と遊興費とを分離して、遊興費を安くして私娼に走る事を防ぐといふ、遊興方法の改善案や、集娼制度に代ふるに散娼制度を以てして私娼を驅逐しやうといふ案の如きは娼妓保護よりも寧ろ貸座敷業者保護の案と云ふべきであらう。

居住及び外出の制限撤廢は先づいゝとして、遊廓建物を制限して、抱主の經費を少くし、娼妓の收入を増

し、收入を屆出でさして稼高の分配を公平にする案などは、帳面づらは兎角、實際問題としては實行は不可能であらう。

こんな風に考へて來ると、現在のやうな公娼制度が存在する以上、その改善など、云ふべき立派な言葉は到底許されない事であると云はなければなるまい。而して、その根强い公娼制度を成立たせてゐるものは何かと云ふと、一にも二にも「貧乏」と云ふものに外ならない。(公娼になるのも貧乏のためなら、公娼を必要とするのも貧乏故である) 若しこの「貧乏」の問題さへ解決されるならば、此公娼廢止に對する唯一の尤もらしい論據である私娼の跋扈の如きも同時解決される事は云ふまでもない事である。

勤儉奬勵の七ケ條

新聞紙の報ずる處に依れば、若槻首相を會長とする勤儉奬勵中央委員會ではさきに都下各種の婦人團體並に高等女學校、女子專門學校關係者二百餘名を內相官邸に招待してこれが方法について審議したがいよ〱この程勤儉促進の第一步として左の事項を實行することになつた。

(一)婚儀葬祭を簡易にして生活に餘裕ある向では卒先してその範を示す事

(二)服裝は質素を旨とし特に學生の通學服には絹布を使用せざるの風を起す事

(三)合理的豫算生活を實行して歐風の驅逐をなすこと

(四)家庭の勞務は各自において之れを分擔し、僕婢を使用する向にありては勉めてその數を減少しまた之れを廢止するの風を起す事

(五)主婦の覺醒と家庭生活の改善による禁酒禁煙の風を起す事

(六)飲食物の調料及ひこれが取扱ひに注意し勞資をはぶく風を起す事

(七)主婦は家庭において努めて國產品を愛用するの風を起す事

處でこの七ケ條は今更ポスターやパンフレットによつて敎へられるまでもなく私達が小學校に居る時代から、耳がたこになる程、聞かされてゐる事である。

それにも拘らず、世間には華美に華美を重ねて行く人々が益々殖え、一方では恐しい數で失業者の數が增加し、勤儉はおろか、その日の食にも差支へる人々が益々多くなつて行くのはどうしたものか。

有り餘る金と、有り餘る閑を持つた所謂有閑階級にとつては、宏壯な邸宅を持ち、美しい服裝をまとつたその贅澤な生活は當然のつきものでそれを誇りとし、それを得意としてゐればこそその生活がなり立つてゐるのであるから、單に常識的な言葉

の宣傳位の事で、その生活が一變されると云ふ事は到底望み難い事である。

それと同時に、一方では此世に大多數を占めてゐる無産階級では、その日その日の生活に追はれて雨露をしのぐ住宅にも着替の着物にさへ不自由をしてゐる者が大半を占めてゐるやうな狀態であるから、勤儉などゝ云ふやうな事は實行しやうにも實行のしやうがないのである。

無論無産階級の中にも多少の餘裕のある者や、又有産階級との中間にある中産階級と云ふ人々の存在してゐる事は事實であるが、廣く眼を社會一般に行渡らせて見ると極少數の例外を除いて、大分は次第に無産階級へ、貧民階級へ沒落しつゝある事は拒み得ない。

勤儉と云ふ言葉に付きものゝやうに考へられてゐる、簡易保險とか、郵便貯金など云ふものも、その金が――その金はみんな、額に汗して貯へた無産階級者の零細な集りである――何處へ行くかと云ふと、積りつもつて十億に餘るその貯金は、普通日本銀行に預けられ、それから銀行團へ廻り、各種の資本家に貸し下げられて、いろんな營利事業の資金となされるのである。

一般の銀行貯金、各種の保險事業も同じ事で、世間の人は貯金とか保險とか云へば金を保存して置くものゝやうに考へてゐるが、その實は資本家の事業資金となるのが本來の使命である。

かやうに世の中は富める者は益々富み、貧しき者は益々貧しくならざるを得ないやうな狀態に出來てゐる以上、さうした根本問題に觸れないで、たゞどんなに大規模に儉約と云ふ事を奬勵したとしても、それは極一小部分の人の、世間的おていさいの限度に終始するのではないか。

婦人の坑内勞働を禁止せよ

さき頃國際勞働協會の婦人部が、鑛山に働く婦人の實狀視祭にゆきました。その後、婦人の坑内勞働禁止の問題について協議會を開いた結果、鑛業主側ではこれを即時にやめることは、いろ〳〵な困難が伴つて不可能であることについて說明をしましたが、安部磯雄氏や矢作博士らはこれは法令に依つて斷乎として禁止する必要があること主張しました。討論の結果、婦人の坑内勞働は、人道上の要求と母性保護の必要に鑑み、且又諸外國に於ける一般的傾向に鑑みても、産業上相當の犧牲を拂ふとも禁止するを必要と認む。この禁止を實現するが爲には、一日も速に法令を以てこれが禁止の法則を確立することを最も適當と認む、但し、この禁止實行の過渡的方法として、現に坑内勞働に從事せる婦人に限り、この禁止につき三年間の猶豫を認むることを適當と認む、と決議をしました。

全國女教員大會を迎へて

一女教員として訴へる

大川葉子

一

私共女教員が全國の姉妹を代表してお互に共同の問題を討議する此大會を機として、私共は常々一個人として漠然と抱いて居る不平や要求を、モットとハッキリした形の、そして教員全體に通ずる問題として考へて見たいと思ひます。

私共は、女としても、又一個の小學教員としても、社會の注意を促し、改善を求めたい點を澤山もつて居ます。例へば男と女の教員は、同一學歷乃至同一資格に對してひどく差等のある俸給を受けねばならぬ理由がどこにあるでせう。これに限らず、一般的な男女の地位の不平等に依てわたしたち女教員の受ける苦痛や束縛は、單に不正であるばかりでなく、其教員としての能率の上にも少からぬ影響を與へるのです。

全國五萬の女教員のうち、約半數は結婚してゐる者でありますから、其等の人々は、教員として男子と同等の義務を盡す上に、更に母として主婦として、男子の負はずとも

濟む重大な義務を負つて居ります。然るに其負ふて居る餘分な義務の爲に、女教員は尊ばれる代りに却つて迫害されるのです。平素、有夫の女教員は能率が低いといつて排斥されるに留まらず、妊娠中や産前産後には、一層無情冷酷な態度を以て見られ、其期間に必要な休息や靜養もゆるゆるとは許されず、其上子供や一家の幸福を名として、出産した女教員には辭職を勸告する校長さへあります。が子供が殖えたため、一層物入の増した貧しい家庭が、主婦の收入を斷たれてどう暮して行くことが出來ませう？　女教員の家庭に限つて、赤兒が食扶持をもつて生れて來る譯でもありませんのに。

授乳時間を見計らつて、女教員の家庭から學校へ赤兒を連れてくるのを厭がる男教員が『學校へ赤兒を連れて來ることお斷り』など丶、教員室の黒板へ麗々と書いたこともあります。女教員は、我子に乳を含ます權利はないのでせうか。女教員の子は、母乳を飲まずとも健全に育つのでせうか。

私共は教育者であると同時に女であり、母であります。そして此女として母としての性情と經驗とが、自から教育者の資格をも向上させるからには、社會は、女教員の生活の此二つの方面に對して、より十分な、より徹底的な理解を持たねばならず、また私共としては、其爲めに大に努力する必要があるのであります。

二

けれどもこの外にも、單に女教員だけに限らず、一般に小學教員全體に通ずる重大な問題があります。

それは今日全國の教員は、自分らによつて支へられてゐるこの國家の政治に對して何等の發言權がないばかりでなく直接關係して居る教育制度そのものを自由に批評する權利すら與へられて居らぬ點であります。私共は與へられた教材を、與へられた方法で、杓子常規に子供の頭へ注ぎ込むことの外は許されず、私共の教育に對する熱心や研究心は區々たる教授法の問題だけに適用の範圍を限られて居て、それ以上、少しでも重要な根本的な問題に立入ることを許されないのです。謂はゞ私達教員は只だイロハを教へる機

械であつて、國定教科書を鵜呑みにして、そのまゝ、又兒童の前に吐き出して見せる藝當より外に、人間として、國民として、何等の修養をも活動をも許されないのです。

僅か一人の教員に五六十名乃至八七十名のいたづら盛りの子供を任せて、當然にも災が起れば、辭職は愚か自殺をまで余儀なくさせたり、二部教授を行つたり、受験準備の爲めに育ち盛りの子供を晝も夜も苦しめて、精神的にも肉體的にも不健康に陷らしめたりする、あらゆる不自然なことは、全て教育費の缺乏に基いて居ますが、それと云ふのも、教育者自身の無力と其言論の壓迫に依る事が多くはないでせうか。

未來の國民を教育するといふ重大な任務を負ふ者は、自分らの住む國、自分らの携はつてゐる教育及び自分ら自身の生活について何一つ自由に批評することも出來ぬやうな機械的な奴隷であつてはなりません。

私共は自由な人間であり、完全な市民權をもつ國民であつて後、始めて未來の國民の教育者としての資格が備はるのです。教員に對して、餘暇に教育書以外の書物と親しむ事を制したり、進歩的な圖書雜誌の閲讀を禁じたり、教育問題以外の講演會や講習會に出席することにまで干渉し、現在自分らの運命を支配しつゝある政治及社會問題に對して興味をもつことを罪惡視するやうな現在の制度や習慣は國民として、同時に教育者としての私達の當然の權利を蹂躙し、隨つて私達自身の進歩發達を妨げることに依つて、未來の國民と其教育との上に煩らひを及ぼすものではありますまいか。

女教員大會は、何々婦人會とやらいふ尨大で空疎な婦人團體の形式許りの大會とは事變り、額に汗して自活する職業婦人の、眞面目な熱烈な要求を代表し、貫徹する爲の機關でなければなりません。單にイロハを教へる機械として、あやつり人形としての教員の地位、奴隷的地位を脱して、獨立の人間として、國民の一員として、此大會に參加し、且つ全國の男女教員と力を協せて、私共全體に共通の問題を討究し、其爲めに進んで道を開かうではありませんか。

× × ×

紡績工場に入つて

私の仕事は、朝（夜業を終えたものに教へる）と、晩（晝業を終えたものに教へる）の二時間づゝ教へるだけですから、殆ど晝は暇です、讀書も充分出來ますが、山に登つたり、遊びに行つたりをいつも日課の樣にして居ます。

紡績女工の生活は、われ〳〵が誌上に論じたり机上で亢奮したりしてその改造を論じてゐる以上の生活です。今の知識階級殊に、學窓を出たばかりの若い人達が、この實際にふれたら百の理論も實際は何の影響も彼女達にないことがわかるでせう。日本で模範工場であるといはれてゐるこの工場が現在この有樣なんだと思ふと、實に涙ぐましくなります。彼女達の生活は、まるで人間の生活ではありませぬ。夜業の十日も續く時などは、彼女達はまるで地獄のやうな取扱をされて居るのです。かりに、病氣になつた時は、彼女達は休養室にうつされて、根性の惡い、たつた一人の女の世話人に食事をはこばれる以外に、めんどうをみてもらふ人はないのです。時々係りの人が見廻りに行くのも、義務的にすぎませぬ。肺病や肋膜になりかけて、毎日熱を出してゐます。よく〳〵ひどくなると、病院にやられます。

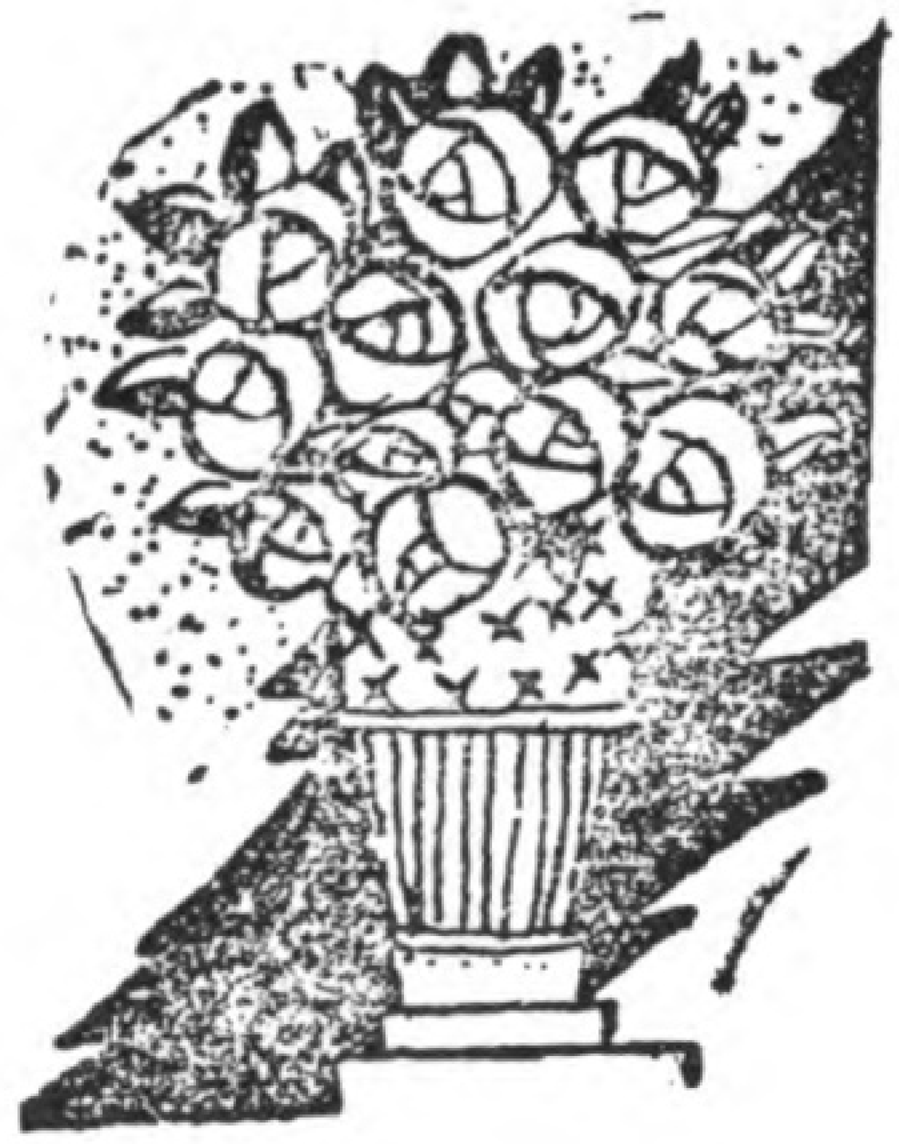
こうなると、大抵の人達の家族がこの機械文明の犧牲者を迎へに來て田舍に連れて歸ります。働くだけ働いて、働けなくなるとみんな田舍に歸へされるのです。

此の頃では、晝は病氣で休んでゐる人達を見舞ひに行つたり、休んでゐる女工さんらをつれて、裏の山や野道を散步に行つたりします。みんながよくなつかしんで、喜んで呉れます。こゝは娯樂といふことが少しも省みられないのです。働くことは牛や馬以上にさせて置きながら。

門は、晝夜交代の番人がついてゐるのですが、それでも逃走者があります。先夜は、あの塀をのりこえて七人逃走しました。その人達は、こゝの勞働に耐えられなかつたのにもかゝわらず、家へ歸して貰へなかつたので、止むなく、彼女らは夜の十一時の汽車にのつて、九州の佐賀まで逃がれたのです。今ではそこの、同じ紡績工場に入つてゐるさうです「警察に届けろ」なんと云ふ聲で、事務所ぢう大さわぎでした。でもこんなことは度々のことなのださうです。この冒險をおかして逃げる人達の氣持ちを知らうとする人は一人もありませんでした。ます〳〵寄宿舍の方は嚴重になるばかりなのです。

「先生、ずゐぶんいらいんよ（辛いの意）足が折れさうなんや」など、云つて、彼女らは大根の樣な太い足をひきずりながら夜業から歸つて來ます。彼女らは何の慰藉もありません。ほんとうによい友達となりよい姉妹となつてこの人達のために、何にかの意義ある生活に導くために少しでも役に立ちたいと、此頃は色々なことを考へてゐます。

先日はこゝで女工のストライキがあつたのです。それは僅か一日休んだだけで頭になつた人は首になつて歸りました。彼女は級長をしてゐたしつかりものです。こんな眠つてゐる樣な寄宿にも、資本家の横暴に憤慨する樣な者のゐることを、むしろ驚かずには居られませんでした。かなりはつきりした階級意識を持つて居るものも見受けられます。（友子）



巡査に叱られた話

池田小菊

學校には御眞影があり、聯隊には軍旗がある。聯隊の軍旗祭といふものが、全市の學校を休業させて○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○分列式を見、模擬戰を○○○○○○○○○○○○見させた結果が子供の頭にどんな印象を殘すだらうか、とにかく行くことに決つて、私も子供を連れて、練兵場へ行つた。

練兵場の周圍に席がとつてあり、各學校、一般市民の立札がしてあつた。私は子供と一緒に與へられた場所についてゐた。軍人の後に男子の學生がついて、きまりのいい分列式がはじまつて、三時間ばかりも續いてすんだ。その間に子供はすつかり疲れた。

式がすむと練兵場の左外の田圃で模擬戰がはじまつた、その間三十分もひまがなかつたが、さあ模擬戰だといふもので、子供大人の氣持は激しく興奮させられた。私は雜沓に疲勞を感じ易い性なので、ざわ〳〵田圃が騷ぎ出すと、狂はしくのぼせて來た、夢の樣なぼんやりした氣持になつて來た。と思つてゐる内に、どや〳〵と群集が後から押しよせて來た。と一緒に私共の團體が騷ぎ立て、馳け出しはじめた。實は私は模擬戰がどこではじまるのか知つてゐなかつた。じつとしてゐたら、式のすんだ後でやつてみせてくれるのだと思つてゐた。ところが左側の外ではじまるといふのだから、右側にゐた全部は左側へ位置をかへなければ、見られなかつたのである。私は何にも知らずに群衆に

押されてわい〳〵走つた。初の内は子供が自分の後について來てゐた。私は目標にと思つて洋傘をさして、「これだ〳〵」と振つて見せながら押されて走つた。きつと血眼になつてゐたことと思ふ。とにかく練兵場の眞中を向側まで走つたのだ。

後で考へるとなる程向側には最初から立札通りの場所先有者がゐた筈である。しかしその時はそんなことは忘れてゐた。足にひつかゝるものさへなければ、見えるところまで走るのが自然である。練兵場がつきて　田圃の岸まで走り出た。その時乘馬の兵士が四五人腕をふつて、聲を破つて「下れ、下れ」といつてかけて來た。すぐ目の前で大砲がなり出して、タンクが動き出した。さあ大變だ、力限り洋傘をふりながら私はまはれ右をして、來た方へ逃げた。みんなも逃げた。逃げても逃げても兵士は追つかけて來る恐ろしいさわぎだ。その内周圍が止まつたので私もついて止つた。そこから見なければならなかつたらしい。止つてギヨロ〳〵さがすと、自分の學校の生徒は大體かたまつてゐて、同僚達は懸命になつて子供を呼集めてゐた。自分も呼ばうとして洋傘をふつてゐると巡査が來て、この繩から一歩も出るなと私にいひつけた。見るとそこに繩がはつてあつた。行きがけどんなにして行つたのか、とにかく繩を飛越へたことを記憶してゐなかつたのだから、夢中になつてゐたに違ひない。巡査が續いて幾人も來て、そこから一步も出さない樣に番をしてゐよと私にいひつけた。同僚が大勢ゐるのだし、自分の子供は相當大きいのだから、よくしてくれるだらうと思つて、私は自分の近くにあつた小さい子供の前に立つて、子供をそこに坐らせ、自分も草の上に坐つた。同僚がよつて來て、しばらくすると私のそばに六人ばかり坐つた。それでほつとして汗を拭いた。毒ガス戰爭の模擬がはじまつて、强烈な色彩のゆをう玉の樣なのがほつ〳〵上り出した。大砲小銃はひつきりなしに響く。「地雷火だ、耳をふさげ」と命令が來る。

その時私共の前に一人の洋服男がとび出て來て、私は洋傘をさして坐つてゐたので、男の脛から下しか見えなかつたが、何やら恐しい聲でどなつた。一寸見たが私の前ではなくて、六人ばかり並んで坐つてゐるその眞中どこに男は

立つてゐたので、不安でもあり私は知らぬ振りをしてゐた「あんたは教師じやないか。そんな無責任なことをしてよいのか。子供を監督しないで、よく大きな顔が出來る」

といつた風な、亂暴な言葉がいくらもいくらも續けざまに飛んで來た。洋傘を上げて見ると巡査であつた。私のそばにゐたのは四人まで男の同僚であつた。何か言ひさうなものだと思つたが誰も何にも言はなかつた。

「あんたはどこの學校の教師か、校名をいへ、姓名を言へ」

と巡査は酷く怒つた。しかし同僚は唖の樣にだまつてゐた。大きな聲で怒るものだから、周圍の人々は鳴をしづめ出した。私と二間ばかりはなれた處にゐた市内の教師連はじろ〳〵私達の方を見てゐた。

その内に巡査はだん〳〵私の方へよつて來た。聞いてゐると、怒られてゐるのがどうやら私らしかつた。こんなに男がゐるのに、おつぴらいた場所で何も女がとんで出なくてもと口惜しかつたが私は默つてゐた。私の學校の生徒が先有權を持つてゐる他校の場所へ押しよせたために、他校で非常な迷惑をかうむつてゐるといふことで、私達は叱られてゐるのだつた。それは手嚴しく。

しかし、そこまで來るともう素直にものが言へなかつた

この雜沓で先有權をふり廻す奴は誰だ！「あなたは最高學府の訓導、學問では僕等は追つつけない。しかし、訓導としての職責が何とか」といふ樣な罵聲を私の背後からあびせた男は、きつと、先有權を持つてゐる學校の教師に違ひない。「馬鹿、いくらでも、ひねくれたがよい」と、私も意地づくになつた。

巡査はとう〳〵私の姓名を記帳しようと言ひ出した。迫つて來た。私はかつと腹を立てた。

「良民の姓名を聞くのに、そんな禮儀があるか」

何でも私はさう叱りつけて立上つた樣に記憶してゐる。巡査は名刺を出した。

「あなたの樣な人の名刺は今こゝで受取る必要がない。群衆の前で人を罵倒することが、良民保護か、それが巡査の仕事か。用があるなら學校へ來い。姓名は何時でも聞かしてやる」

といふ風なことを、私はしやべつた樣に思ふ。巡査は何かいつてゐたが、閉口した樣な顔をして、ぐず〳〵いつた

「雜沓の中で贅澤をいつたりしちや罰があたりやしないか誰でも我子は可愛いんだぜ。半分位席をわけて、見せてやつてくれたつてよささうに思ふが」

といふ樣なことも、自分が言つた樣に覺えてゐる。

そんなことをいつてから坐らうとして、ふと後を見ると私の背後に人は山の樣に顔を盛上げてゐて、私を見てゐた私の顔は思はず紅くなつた。

「何とすごい女だなあ」

人々はさうは思はなかつただらうが、厭な氣がした。

「おつぴらいた場所で女がもの言はなくとも、男の方が何とかしてくれるだらう」

なんて、隨分氣のいい考を出したものだ。あんな考をさへ出さずにゐたら、もつと初めに自分は何とか答へてゐた筈だ。さうすれば巡査の方でもこぢけないだらうし、自分だつて素直に物がいへた筈だ。そして恥をかゝずにすんだ筈だ。後でそんなことを私は考へた。

「平生はずゐぶん自分を主張するのだからね。今日もその調子でやれば事がなかつたのだが」

と同僚に話すと、みんな氣の毒さうに苦笑してゐた。

——○——

◉ 笑話

エテルが學校から歸つて來て母親に、頭も尻尾もない變てこなお話をして聽かせました。

『おやおや、ずゐぶんをかしなお話だねえ。孃やが間違つてゐるのでせう?』

『いいえ』

『ぢやあ明日先生に賴んでその本をお母さんに借りて來て見せてちやうだいな』

『だめよ。先生は本なんか持つてゐないのよ。そのお話は先生の身體の中に在るのよ』

さ、エテルが眞顔で答へました。

——フランスの雜誌から——

與謝野晶子

○

わがよるは緑の欅の木なれども枝は大かた雲におほはる

○

玉川の調布の驛のこひしけれ蛙鳴くべきくらき夜にして

○

初夏は隣の家の煙突が吐く息すらもなまめかしけれ

○

灰色の風吹きめぐる夕さへ矢はぬかな五月の若さ

○

さゝやかに或りまさるなり若葉して亭助が屋根はからかさの如

○

初夏の山の雲にもならへかし心は少し動き行けかし

○

御空より日に日に落つる火のありていやが上にも椿の赤し

○

山吹の二つの岸を巣になしてしろき翅の山川生る

子供を學校より家庭に引戻せ

—頭の敎育より心の敎育に—

平田のぶ

機械人間

人智の極をつくした最も精巧な機械の入つてゐる大きな頭、何かにぶつかると、すぐにもこわれさうな硝子で出來た頭、それだのに身體は何といふ貧弱さでせう。重い大きい頭を支へる事さへ出來さうもないのです。

人間の足が大地を踏まず、手が鋤を握る事を止め、心臟は愛する事を忘れてからかれ果てました。

凡ては土の惠みを忘れ、太陽の愛に叛いて、机上の試驗管の内に人生の幸福をさぐり當てたと思ひ上つた罰であります。

といつて科學を呪ひ、文明を否定し様といふのではありません。

只科學の名に依つて生殺の罪を犯し、憎む事を敎え、人間をして血のない機械人形に墮落せしめ樣とする文明を恐れるのであります。

人間の足が再び大地に口づけし、手が愛人を抱き、心臟が清い血をたゝへる事を願ふのであります。

敎育は愛

教育は愛する事だと思ひます。愛に依る靈の交感であり相互人格の觸發であります。他の生命によびかけ度い呼びかけられ度い願ひであります。義務でもなく、權利でもなく、生命自らなる發露であり、必然の要求であると思ひます。

今の教育は耳を素通りする蓄音機式であり、死んだ知識を蓄め込む倉庫業であります。全力全靈を以つて觸れ感ずる靈の教育ではありません。知らしめる事に腐心され、感じ味ふ事を忘られた頭の教育であります。

藝術教育の名に於てさへ、考へ論ずる事を重ぜられ、沒我の味到の境地に置く事は忘られ勝ちであります。創作と稱せられるものも、多くは、與へられた美の軌範に照して頭の命に依り、手を、口を、身體を以つて再現する死んだ模倣に過ぎません。

今の子供の自由畫を御覧なさい。あまりにも、不自由畫の多いのに驚くではありませんか。何處に自己表現があり眞の歡喜がありませう。

何に原因するのでせう。

手本を模寫する事を廢められ、寫生が重んぜられ、……模寫の内にも創造があり寫生のうちにも模倣のある事さへも省みられず……自由に村料をとる事を許されました。然し、彼等はやはり元のまゝに、描かされてゐるので、遂に描く事は許されなかつたのです。

今描き度いか、描き度くないかは全く考へに容られません。表現しないでゐられない内なる要求の有無は問題にはされません。如何に描き度い氣持が内に熟して居樣とも、今算術の時間であるの故を以つて、彼等は、それを我慢してゐなくてはなりません。そして、その熱が冷め切つて、もう、何の感興もなくなつた時に、一週一度の圖畫の時間がやつて參ります。

感興が去り、描き度いものを内に持たぬ彼等も、時間なれば、描く事を强ひられます。

彼等は、先づ、何を描かんかを考へなくてはなりません

そしてその撰擇に對する彼等の心の動きをみてゐる時、如何に不自由なる拘束に、彼自身を縛つてゐるかを感知する事が出來ます。

「何を、どう描いたら、いゝ點がもらへるかしら?」

「先生はこんな繪がいゝのだと仰言つた」

「かういふ風に描くべきだと敎えられた」

何といふ不自由、何といふ不純さでありませう。これでは、生命のないものの出來るのが當然であります。

彼等は先生の指導意識に拘はり、先生の固定せる型に引ずられ、先生の親切な示範に災されてゐるのであります。

弱き者よ、汝の名は子供なり、と悲しむと同時に、權威ある者よ、汝の名は敎師なりと寒心しないではゐられません。綴り方に於ても同樣であります。

私が學校に於ける時間制度を批難し、敎師の指導意識の災を强張し、子供の内なる表現要求と、彼等らしき表現とに關心する所以は此處にあるのであります。

家庭には時間割がありません。お母さんが敎師の愚を學ぶ賢母でなくば、即ち敎育指導の意識を持たぬ愚母であるならば、子供は自由なる心自由なる表現に依つて、彼自身の生命をとり込んだ作品を作る事が出來るのであります。

勝手な時に勝手に描かれたものの内にのみ、彼等の生命の躍つてゐるのを見ます。さうした作品を見る時私は放つておかれる子供の――自分の生活を大人に犯されぬ――幸福を痛感いたします。

尋常一年の入學當初の子供をみてゐますと、幼稚園から來たものゝ中には旣に自分のものを失つたのが多いのが目立ちます。家をかくときには、お屋根はかう描いて、お窓をかうつけて、草を緣に塗つて、お道はセピヤを使つて、側に木をかいて……

彼等は自由を與へられた時にさへ、かうした過去の指導者の幽靈にとつかれて、不自由な思ひをして居ります。

それに反して、放つておかれた子供達は、千里眼の眼を持つてゐるものゝ樣に、家を描けば、裏側の庇までみ、硝子張りの井戸側を描いて、瓶を誘視してゐます。

だが彼等は幸にして描かれる習慣を持つてゐません。自

分で描く事を知つて居ります。だから、その不合理、その整はざる缺點の中に、彼等の生命の躍如たるものが感じられます。

表現したい内なる願ひを如何に表現するかも、各自の自由であり度いと思ひます。圖畫に依つてのみの表現を强ひ又は綴方にせよと命ずる事はやめたいと思ひます。色彩によるも、文字を選ぶも、又は、言葉、運動(劇)に表はすも凡ては、子供の願ひに發せられたものであつてほしいと思ひます。

私は或日子供達と上野の動物園に遊びました。その翌日彼等は學校に來ると直ぐ、描くは描くは、歡びに充ちて描きました。綴りました。喋り立てました。動物園ゴッコもしました。或る子供は、さるの母さんが赤ちやんにオッパイをやつてゐる所、或る子供は、ライオンの怒吼してゐる處或る子供は龜が日向ボッコをしてゐる所……。そしてそのどれも〳〵が私を嬉しがらせるに充分な、その子供自身の生命の表はれであり、動物に對する愛の感激に充されたものでありました。

知る事より感ずる事

教育が愛であり、愛の創造であるならば、今の學校教育教科教授の凡てに對して疑ひを持たないではゐられません

机上にまで持つて來られた菜の花には、蝶は訪れません一瓣一瓣もぎとつた菜の花は既に菜の花ではありません。解剖する事が必要なら、先づその前に自然の野にさいたまゝの菜の花自身の生活をヂットみつめさせ度いと思ひます訪れ來る蝶の愛、蜜を與へる菜の花の愛を感じさせ度いと思ひます。

蛙の命を平氣でとる慘虐な敵でなく、彼と共に歌ひ、彼と共に飛ぶ彼の友であり度いと思ひます。かくしてこそ、ほんとうの蛙の生活を感じ得るのだと思ひます。腸をたちわられた蛙には生活はありません。一生昆虫の愛友であつ

たファブルこそ、ほんとの昆虫學者だと思ひます。

教育の最上高位にまつられてゐる修身までが、頭の教育である事を悲しまないではゐられません。

子供の心情を無視して、如何に「友人と仲よくせよ」と口を酸くして說いたとて、喧嘩のやむ事はありません。「仲よくせよ」と說く前に「和ぐ歡び」をこそ感じさせ度く思ひます。

道德は說く事によつて憧がれを失はせ、度重なる敎訓の中毒に依つて、子供は免疫されます。

地理や歷史も同樣であります。

何故神代から系統を追はなくてはならぬのでせう。どうして、紀號を知つてからでなくては、地圖を見せてくれないのでせう。

何故傳說がしりぞけられ、野蠻未開の國は簡單に素通りさせられるのでせう。

系統を追ひ、單より複、基より支に及ぶ組織が、子供の生活と、どんなに關係があるといふのでせう。

印度の黑奴の子供の日常の生活が餘談として取扱はれ、地圖にも見えぬ山にまつはるローマンスを語る事が脫線と考へられる間、どうして、子供のほんとの生命の成長の助けとなる事が出來ませう。

私は子供の頃田舍廻りの旅藝人の小さい女の子の後を、どこまでも／＼ついて歩き乍ら、私と同じ年頃の彼女は、旅から旅に踊り歩き乍ら、何を感じ何を考へてゐるのだらう……と不思議でなりませんでした。キット、まるで違つた人間であるに違ひないと思ひました。

でも、時たま村の木賃宿に彼女達が泊つた時、やつぱり私達と同じにふざけたり、笑つたり、おてだまとつたり、石けりしたりするのをみると、たまらなくなつかしくいとしくなるのでした。親方などにひどく折檻されてゐるのを見る時など、

「お母さんがないのかしら？」

など考へては涙ぐむのでした。

氷の家に住むエスキーモーの赤ちやんもお母さんに抱か

れ、まつ黒な黒奴にも親を戀慕ふ心のある事を知る時、
「あれも人の子」
の愛を持たないではゐられません。

汽車の窓から何氣なく見過した東海道の小驛も、膝栗毛の話しで生命を持つて心に蘇つて來ます。

史實の不確實、架空の物語りといふ事は、少しも子供の憧がれの妨げにはなりません。
「私はね義經なの。だから私のお父さんは、僞義なの」
と彼はいひます。彼は平氣で、時代を超越し事實を無視する大膽さを持つて居ります。

死んだ年號や、無味な地名の記憶を强ひられる子供こそ災ひであります。まして、試驗に恐迫されて神經衰弱症にかゝるにおいておやといひ度くなります。

またたく星に宇宙の神祕を感じ、葉がくれに吹く一本の野草の内に、自ら姿を見出す愛こそ、私の願ふ心の靈の敎育であります。

母の懷に取りもどせ

工場の様な學校組織は、子供を機械人形にします。
鐵筋コンクリートの校舍は、子供の心臟をコンクリートします。
蓄音機の敎師は、子供の頭を貯藏庫と化せしめます。
子供を愛する母さん、
工場學校を廢して下さい!
鐵筋コンクリートの校舍を壞して下さい!
蓄音機を鳴り止ませて下さい!
そして其所に、
綠の芝生を植えて下さい!
草屋の小さいお家を建てゝ下さい!
そして其所に
貴方の愛を盛り込んで下さい!

女教師となつて

可成りな期待と憧憬と不安とをもつて飛び込んだ社會人としての生活が、一ケ月すぎ樣として居ります。早い事としみ〴〵今思はれます。

よく晴れる日が來るかと思ふと、強い〴〵風の日が來ます。そしてまた、今日の樣な寒い雨の日、一日中薄暗くていやな日でした。

家事のお講義を二時間もつゞけてする時は、先生も生徒も活氣がなくなつて來ます。何んと云つても乾燥してゐます。泣き出したくなつて來ます。

或る時は、反響のない餘りの淋しさにどこまで自分をさげて行けばよいのか困つてしまつて、だまつて生徒をみつめたりもしました。興奮してしまふのですもの。今日も今日とて、雜談をまぢへながら、それでも今までよりは一寸生き〴〵してやつて行けました。

私は話す事が大好きですが、全く馬鹿ばかしい樣な話しより他にきかされぬ近頃、それにいつも耳をかし口をかす事をつきあいとせねばならぬ樣な私をよくみかけます。

いやな事はいやだと放り出したいそしてひたぶるに自己の目ざす道につき進んで行きたい。それだけの勇氣をもち合して來ないのが意くじなしなのか。

今日も昨日も出來上つた人間と云ふ樣な愚かな顔をして歩いてる仲間の者をみると、まざ〴〵と自分の姿が客觀化されてとてもたまらなくなります。

何かかう力強いものをしつかりとにぎりしめて、綱引きの樣に汗みどろになつて働き度い、勢いつぱい力いつぱい、なせるだけやりたい、こう思つてゐるのです。

赤銅色に日にやけた生徒の顔、ほんとにここの生徒の健康色には初めびつくりさせられます。そしてつぶらな天眞な瞳をみると親切なよいお姉樣になつてあげなきやすまなくなります。そうです、泣き事はよして起ちませう、そして居りませう、私のまわりの小さな魂のために、それにとりまかれてゐる私のふるへる魂のために。

初めて俸給を頂きました時の氣持つたらとつても妙なものでした。多すぎて勿體ない樣な氣もしました。旅費も合せて二百餘圓、これからこの腕で生きて行くのだ。しつかり働いてくれよとさすりました。獨立てふ事は、力強いものでもあり、今の私には淋しいものでもあります。

（秀　子）

思ふことども

奥むめお

共同炊爨

女子大學の三年間、私は家事、料理のために授業時間を多くとられすぎるのを、よく憤慨したものである。

漠然とした頭でゞはあるが、その當時の私には、人間がたゞ、食ふて、生きてゆくといふだけの事に一日中の——いや一生の精根をすりへらしてゐるのが腹立たしかつた。それと同じやうな心で、女である私が、家事や料理のために、澤山の時間を使つて好きでもないお稽古をさせられるのがいま〳〵しかつた。

「卒業したら、飯炊會社を拵へて配達してあげますよ」といふやうなことを私が云ひ初めたのは、それから大分經つてからである。

考へてみよ。朝起きると、自分の家でも、隣りでも、お向ひでも、シュウ〳〵つと、御飯の吹き出す音がするし、味噌汁のにほひが流れてくる。夏のあけがた、井戸端に行つてみると、多くの主婦が盥一杯の洗濯物の濯ぎ洗ひで、少く共一時間はしやがみ込んでゐるでないか。掃除をする時間、縫ふ時間、洗ふ時間煮る時間、女の時間の大部分は誰れがしても結局同じかりさうなことで、どん〳〵消えて行つてしまふ。

良妻賢母といひ、母性といふても、普通にはその大部分は、衣食住と子供に伴ふ家事勞働の雜役を意味してゐるにすぎないのではあるまいかとさへ考へられる。そして、こんなこと位、やり方一つで幾らでも簡便に出來る筈だし、もつと大組織にしたら澤山の女の手を省いて、而も、もつと行屆いて、もつと、大量にやつてゆける筈のものである（女が、さういふ雜役から解放されたあとの生活を、私はいろ〳〵に想像してみて樂しむ）

その一つの方法として、共同炊爨と、共同洗濯のことを私は始終考へてみた。曾つて、荻原眞子女史が丸ビル二階で洗濯部を初められたとき、女同志の協力で、もつと大仕掛けな洗濯所を拵へて、早いことゝ一時に澤山に出來ることゝを要領にして、忙しい女の手から洗濯を取上げてしまふことに就いて、度々話し合つた。

さき頃、丸の內通りの鈴木商店の店主鈴木小松女史を訪ふたとき、（女史の長い奮鬪物語りは、曾つて主婦の友誌上に委しく揭げられてあつた）二人は共同炊爨に就いていろ〳〵話した。鈴木商店は、特許鈴木式蒸汽煮炊釜の据付をする會社である。女史は、早くから共同炊爨の理想をもつて、震災當時には、四斗炊き釜を二個、當局に寄附をして試みに行つてみたけれど――と云つて、一通の、悉しく調べ上げた見積り書を見せられた。

炊いた飯は、食パンのやうな取計ひではゆかぬし、いはゆる家族制度の美風とかで、わが國は長い間、小さく一家族每に籠居生活をつゞけてゐた習慣もあり、感情も手傳ひして、共同に炊いた飯を、各々配達をうけて食べるといふことは、ちよつと、實行の六ケしいことにも考へられる。

然し、寢てゐる內に、或ひは外の仕事に働いてゐる內に暖い飯の配達をうけて、あとは手輕くお菜拵へだけで食事をすますことが出來る、考へてみるだけでも愉快でないか。

どうせ配達をうけるなら、お菜も一緒に貰ふのでなくては二重手間だ、とか、結局、配達されるよりも、好む時に出掛けて行つて、好きなお菜で食事をすます方がいゝとか注文はいろ〳〵に出るであらうとは考へられる、とにかく煮ることや、洗ふことや、縫ふことらの雜勞働を小さく仕切られた家庭々々の中でめい〳〵に行つて、澤山の女の時

間と勞力とを奪ひ去つてゐる現在の方法は、ぜひ考案されなければならないことゝ思ふ。

職業紹介所に就いて

今日も、○○さんは重苦しい、疲れた顏をしてかへつて來た。廿日ばかり求職のために奔走をつゞけてゐるのである。けふこそは、けふこそは、といふあてもない望みに微かな希望をつないでは出掛けるのであるけれど、○○さんの顏は、一日一日と暗くなるばかりだ。

新聞に出てゐる「女事務員採用」のところを切拔いて、幾つか財布にしまひこんで出かける。○○さんの話を聞くと新聞廣告を見て來る人は、職業紹介所に來る人とは全くシナが違ふさうである。隨分立派な風をした令孃や奧樣らしいのが續々とくる。パリ〳〵の東京つ子らしいのが、明るい調子で、これで求職者なのかと疑はれるほど元氣な樣子をしてやつてくる。實際、毎日の奔走で、疲れ切つてゐる○○さんには、あんなに明るくて活潑なのは、羨ましいといふより、目にさへ痛いやうだといふのである。

紹介所婦人部の岡谷さんが、曾つて、『あちこち世話をしても、結局いつまでも決らない人もありますけれど、そんな人は、どこか、その人の方に惡い處を持つてゐて雇ひにくいのですよ。眞面目で、本氣に職業を探してゐる人なら職業がないといふ筈はありません』と云つてゐたけれど、然し今時のやうに、學校出の求職者が何萬と市場に溢れてお互ひに激しい競爭をやり乍ら、ある限りの知己縁者の綱をたぐつて紹介狀を持ちまはつてゐる渦巻へ、全く素手で年齡から云つても、娘ざかりをすぎた廿三歲の○○さんが參加してゐるのは、何といつても持合はせた條件が惡るすぎる。

殆んど絶望的となつてゐる○○さんの肩を叩いて、昨日も、今日も、無理押しに職業探しに出かけさせるのは、この私だ。

○○さんは、職業紹介所なんか、もう決してあてに出來ぬ、といふ。幾度か、紹介所の傳票を貰つて、尋ねまわつてみたけれど、みんな、傳票がま違つてゐるのか、先方の云ひ分が違ふのか、見ると聞くとは大違ひなんださうであ

ろ。たま〳〵、良い口があつたと思つて喜んでゆくと、すでに、一週間も前に雇入れました、といふ返事であるといふ。

右から申込みを受附けて、左から、傳票を渡して求職者をおん出してゆく。

何年何月度の職業紹介所々報、求人何千何百、求職何萬何千、紹介濟何千何百といつた風に、そして、いたづらに數字面の大を誇るといふ形勢である。調査、統計で（調査し統計をとつたものを、どう生かしてゆくかといふことには一向無關心に）日を暮してゐるのが、わが當局者の常であるとは云ひながら、食べるものも食べないで振りむけてゐる大事な電車賃を、そんな空しい草疲れまうけにあちこちさせられては實際求職者の方がたまらない。

◇

（三十三頁より續く）

こゝにおいて、男女の結合はそれ自體が目的でなくて、ある他のもの、子孫のために奉仕することによつて肯定されることとなるである。

この立場はエエヘプロテスタントの立場ではない。キリスト敎的プロテスタントの立場である。或は凡ての敎會的道德の立場である。

子供のために男女關係が肯定されるといふことは、男女問題についての昔から行はれてきた最大の謬說である。そして、それは道德の名によつて語るにもかゝわらず、最大の不道德を包含してゐるものである。何となれば、それは人間をそれ自身一個の目的と見る代りに、一個の手段一個の機械、一個の奴隷と見るものゝ立場であるからである。われ〳〵がエレン、ケイにおいて多くのものを數へられてゐるにかゝわらず、遂に彼女から去らなければならないのはそのためである。

エレン・ケイ女史の死を悼む

――早くから、わが思想界にケイ女史を紹介して、私たち後進に多くの暗示を與へられた左の三氏にお伺ひして、ケイ女史の思想の内、最も共鳴された點、あるひは、その生活態度又は思想の中で、女史から暗示をうけたと考へられる點について書いて頂きましたものです――

らいてう

女としての生活に光明を認められず、ともすれば性を無視し、又は忌避するやうな氣持や、思想の傾向をもつてゐた私に、性の問題の嚴肅さを教へてくれ、さうして閉されてゐた女性の世界に私の心の窓を開いてくれたのはケイ女史です。私の過去の生活の途上でケイ女史から何もきくことが出來なかつたら、私は今日とは違つた思ひ切り孤獨な道を歩いてゐたかも知れません。

山田わか

ケイ女史の生ひ立ちとその重なる著書

エレン・ケイは千八百四十九年瑞典の南部にあるスモーランド州のズントホルムの勝地に生れた。彼女の父の系統にはスコッチケルトの血を引いてゐたが、母は獨逸系の貴族の出であつた。父は非常に教養の高い理想家肌の人で急進黨の領袖として十數年間下院に席を占めてゐた。又その母も貴族出の婦人には似合はず、非常に進歩的な平民的な性格の持主であつたので、彼女は幼けない時からその母と、家庭教師によつて最も進歩的な教育を受ける事が出來た。

×

彼女は斯様に自由な、進歩的な兩親の下で早くから水泳、船漕等の運動に依つて身體を鍛へると共に、その聰明な天性から、夙くから讀書に對して深い愛着を持ち、既に五歳のとき、自發的に書物に親む事を覺え、未だほんの少女の時代から、スコットやセキスピヤや、ゲーテ等のものを讀み耽つた。

×

彼女は十七歳の時に從妹が目のあたりに、悔い改めるひまもなく死んで行くのを見て、基督教の儀式に依る信仰に深い疑問を抱いて遂に二十歳以後は、一切さういふ宗教的儀式

一、長い間、男子には知られてゐなかつた女性獨特な心理的性質を男子の目の前に展開し、男子をして、公平に婦人を判斷せしむるやうにした點。

二、過去は何であれ、又、現在はどうであれ、將來に於ては、男女は二つの別な方面から働いて、結局は一つの仕事を完成するのだと云ふ點。

原田實

動物乃至生物としての人間性を極めて適度に許容（或は發揚）せんとせる誠意は、エレン●ケイの著作を讀みて第一に敬服するところです。それを拒絕し過ぎる考へ方、また、それを許容し過ぎる考へ方が餘りに多い世の中ではありませんか。

には參列しない事にした。二十歲の時一家がストツクホルムに移住したので、彼女は專問學校や圖書館に近づく機會を得て、當時の凡ゆる方面に於ける思想家の著書を讀み漁ることが出來た。丁度其頃、家庭雜誌の主筆ソフキ・アアレルスパッレ夫人と知合ひになつて後には、その雜誌へ寄稿する事になつた。二十四歲の時、父に伴はれてヨーロッパの各都市を漫遊に出かけたが、彼女はこの旅行に依つて、各國の名高い繪畫や彫刻に接する機會を得た。

×

一八八〇年三十一歲の時、彼女の父が多年計畫した事業に失敗して、家產を蕩盡してしまつたので、彼女は自活しなければならなくなつた。そこで、家庭雜誌に記者として働いたり、女學校の敎師となつたりした。この當時から、引込勝ちであつた彼女の性格に大きな變化が起つて、公然と其思想を發表するやうになつた。而して、その文學的な天分に富んだ婦人問題に關する彼女の評論文は、世人の注目する所となつて、彼女は各種の學校その他から招かれて、美學、文學、歷史、等に關する講演をやつた。彼女はこんな風に、小學程度から大學程度の學校に至るまで、約二十年間講演をして廻つたのであつた。

×

一八九〇年、齡五十にして彼女は敎育界を退いてから、純然たる文筆の生活に入つて、婦人問題、社 問題に關して、多くの論文を發表した。歐州戰爭に際しても、戰爭、平和及將來といふ著書をあらはした。旣に七十歲の老齡を以てしてもなほエリスの所謂「その子を保護する牝獅子」のやうな意氣込みで論陣を張つてゐる。

彼女の多くの著作のうち、最も一般的に知られてゐる代表的のものは左の如くである。

兒童の世紀
戀愛と結婚（本間久雄譯　大同館）
婦人運動（原田實譯　聚英閣）
母性の復興（平塚らいてう譯　新潮社）
戰爭平和及將來
エレン、ケイ思想の眞髓（本間久雄大同館）若き男女へ（本間久雄原田實共譯）

エレン・ケイに就て

室伏高信

——女であることよりも母であることが重んぜられ、母であることよりも、子供それ自身に重きがおかれて來るその思想——

◉

エレン・ケイ女史についての詳しい知識を、私はもたない。彼女の思想と人物についての詳しい紹介は、他に人あつてこれをなすであらう。私は彼女についての私の感想の一二を述べたいと思ふだけである。

　彼女が、一個の婦人として、今日の世界における最大なものの一人であつたといふことは何人にも異論のないところであらう。ウワルストンクラフト、ジョウジ・サンド、エリザベス、バレット、ブラウニング等のごとき、史上の女性とともに彼女の名は永く傳はるであらう。またミル、ベエベル、フオレル、リリイ、ブラウン等の婦人論者とともに彼女の思想は永く傳はるであらう。そしてまたビヨルンソン、イプセン、ストリンドベルク、ハムズン等のスカンヂナビヤ人とともに永く世界に傳はるであらう。

◉

『戀愛と結婚』は彼女の主著である。エエヘプロテスタントとしての彼女の面目は此一書によつて最もよく窺ふことができる。近代における自由戀愛の哲學、そして自由離婚の哲學は、この書物において恐らくは最も深く述べられてゐる。

　彼女自身は一生を獨身でとほしたけれども、彼女は決して肉慾の否定者であつたのではない。靈と肉とは彼女にとつてはともに神聖なるものである。彼女の言葉でいふと、神聖なるものの二つは、形體である肉の否定において靈が存在するのではなくて、靈と肉との浸透によつて、靈も肉も、より神聖なるものとなるのである。

◉

　彼女は戀愛において、そして、その戀愛に基くところの男女の結合において、たゞに一個の新しい人間の創造があると考へたばかりではないこの結合するところの男女が、その結合を通じて、それ自身を、一つの新しきあるものにと創造することを

見たのである。そしてそれは、何れの當事者自身ではなくて、それよりもより偉大なるあるものであるといふことを信じたのである。この偉大なるものへの確信こそ、彼女をして大膽なる自由　愛にと導いたものであると思はれる。そしてまた、それは凡ての自由戀愛論者にとつての、彼等の理想を倫理づけるところの最も高き思想であると私には思はれるのである。

◉

彼女はしば／＼エエヘプロテスタントとして批評をうけた。けれども彼女の眞の面目は、寧ろ一個の保守主義者であることに存するがごとくである。少くとも晩年の彼女は一個の老教育家であるがごとき觀があつたのである。

ハベロツクエリスが嘗て彼女を批評して、彼女は二つの兩立すべからざる理想を調和せんと試みた、となしたことがある。私はこの批評に於て彼女の長所と、そして弱點とが最もよく喝破されたと思ふ。

彼女は一方に自由戀愛を說いた戀愛がそれ自體において一つの創造であり、そしてそれ自體において、神聖なるものであることを說いた。この立場は放棄したと私はいふのではないけれども、彼女の思想は、次第にこの立場においてよりも、他の一つの立場において、より大なる重心を見たやうである。種族の改善といふことがこれである。

⑯

彼女は戀愛は個人的であつて、子供は社會的であるといふたことがある。彼女の言葉でいふと、彼女の思想の重心は、個人的から社會的へと次第に移つてきたのである。個人的なるものと社會的なるものとの調和を目的としながら、個人的なものが漸次に影をうすくして、社會的なものが、遂に重心をなしてきたのである。彼女はこゝに、彼女の性愛の倫理にと到達したのである。

⑰

彼女は母性愛に重きを置いた。一方に自由戀愛を主張しつゝ、他方に母性愛を高調した。

彼女の母性愛の思想は深く、ニイチエの影響をうけたやうである。彼女の婦人論が、一個の婦人論の立場を脫却することのできないにかゝわらず多くの婦人參政權のごとき唯物主義、女性の男性化の運動に墮落しなかつたことは大いに同情に價するのである。そして滔々たる職業婦人的婦人權論に對して母性愛を高調したことは時代の淺薄なる風潮に對する一つの警醒であつたことは拒むことはできないのである。

けれども彼女が母性愛に重きを置けば置くほど、彼女の第一の立場は崩壞せざるをえなかつたのである。

⑱

彼女は、人類に奉仕するといふことにおいて男女愛の倫理を見るやうになつた。こゝに、女であることよりも母たることが重んぜられてくるのである。母たることよりも、子供それ自身が重きを置かれるのである

（二十九頁へ續く）

就職難に泣く

越智芳枝

これで四度目か五度目だと思ふ。苦しい中から私は蒲田から東京までの電車賃を用意して職業紹介所の門を今日も叩く。五月の朝風は未だうすら寒い朝の九時だけれど、早や六七人の求職婦人が元氣の無い顔を並べてゐる。私の後にもなほ、續々やつて來る。見て居る中に二坪ばかりの待合所は、二十人ばかりの求職婦人でいつぱいになつてしまつた。中には五十以上六十位とも思はれる樣なお婆さんが、曲つた腰を伸して、

『先日はどうもありがとうございました。なか〳〵分りにくい所でしてね、やつと搜して行つて見ましたが云々――』

後の言葉ははつきり分らなかつたが、何でもそうさし當つて婆やが必要でなかつたとか、女中を雇ふ樣な家ぢやなかつたとか云ふ樣な話しぶりでした。そこでそのお婆さんは、又別な紹介をもらつて、どこかへよぼ〳〵と出かけて行く姿を私は淚ぐましい氣持で見送つた。

十二時近くなつてやつと私の順番が來た。二日ばかり前に紹介されて行つた先の返事も、大抵駄目だろうとは思つてゐたけれど、やつぱり駄目だつた。耳かくしでも結つて錦紗の着物でも着て行つたら雇はれたかも知れなかつたのか。着古した銘仙の着物に、色のあせたメリンスの帶が私は恨めしくさへ思はれた。

けれどもその次の瞬間、私は救はれた樣な氣持になつた。月給卅圓で丸の內の第一火災保險會社の事務員で、字が書けて計算が少し出來ればよいと云ふ、とてもよさゝうな口があつたので、私は其處へ紹介を貰つて行く事にした。一時頃やうやく尋ねあてゝ、應接間へ案內された迄はよかつたが、人事係りが一寸手が離されないからと云ふので、待たされる事二時間、待ち疲れてうと〳〵とした頃、がたんと戶の開く音がしたので私は初めてほつとした。何とかして雇はれ度いと思ふ心から、私は出來るだけうや〳〵しくお辭儀をしたものだ。

履歷から身の上話――私は正直に素直に問はれるまゝに答へた。それから保證人の話になつた。そうだ、保證人も必要だろうな。

「ところで保證人はあるね」

「ハイ、唯今お世話になつて居ります所の主人が」

「それは何をしてゐる人だね」

「著述をやつて居ります」

「著述と云つても色々なものがあるが、どんなものを書く人ですか、蒲田と云へば活動寫眞の會社がある所だから、そんな所に屬して居て、何かそれに關係のあるものでも」

「いいえ蒲田と云ひましても隨分廣い所ですから――。

小說を書いたり論文を書いたり、時には、飜譯もおやりになります」

「それでは何處かへ勤めてもお出でにならんのですな」

「はい」

「さういふ事をして居られるのでは一定の收入と云ふものがないでせうね」

「はい」

「學校は何處を出られた人ですか」

「さあ、私くわしく存じませんので」

「分らない樣では、さう大した所を出て居られるのでもないらしい、そして一定の收入と云ふものが無いとすると、直接國稅なんか納めては居られんでせうな」

「くわしく存じませんが」

そんなものを納めて居やう筈はないと思ふけれども、私として其場合はいとは言兼ねた。

「私の會社では、直接國稅十五圓以上納めて居る人が二人、保證人として必要なんです。そんな保證人はありますか」

「はい、唯今居ります所のお知り合ひも澤山ありますから、明日でもよかつたらさう云ふ人を保證人にお願ひして參りますけど」

「さあ明日と云つても免倒くさいが、今分らんかね」

私は内心氣が氣でならない。誰か無いかと心當りを思出してみるけど二人は一寸思ひ當らない。さうだ、金に餘り緣の無い者ばかりを知人に持つて居る私達に、直接國稅十五圓以上納めてゐる人は一寸見當らないのは當然だもの、私の頭に浮んで來るものは、時々質屋へ出入りしなければならない○○やら、子供も段々增えて來て、とても東京ではやつて行けないから、田舍へ引込まうとか云つて居る○○しかない。けれどもそうした保證人の 人位は、今日歸つて相談してみればあるのだからと私はひたすら明日まで待つてもらい度いと賴むのであつた。人事係りはさも待ち遠しいと云ふ樣な六ケ敷い顏をしてゐる。すると突然放り出す樣に、

「そんな遠い知り合ひ位ぢや仕樣

が無いね」

貧乏な一族には、火災保險會社としては何の必要も無いと思つてか、私は體よく其場を斷られてしまつた會社側にはどんな魂膽があるのか私は知らない。私の身邊に近く、火災保險に入れる樣な邸宅を持つてゐる保證人でもあつたら雇はれたのかも知れない。

たゞ一人置いてきぼりにされ、私はたまらない侮辱を感じて、今にも泣き出しさうになつた。けれども、そうしてゐる場合ではないので、こそ〳〵と其處を出てしまつた。

あんなにまで期待して尋ねて來た所が又駄目だつたか、今日も亦空しく蒲田へ戻らなければならないのか後日と云つても又駄目ではないか、駄目と云ふよりも事情が許さないではないか、もう一度紹介所へ當つてみやうか。どつちとも決心がつかないで、私はぼんやりと街の角にたゞずんだ。この上紹介所に行く元氣は無かつた。――『そうでしたか、ぢや又二三日の中に來てみて下さい』こう云ふ返事しか持たない、そしてそれだけの責任しか持たない所へ行つて訴へても何にもならないのだから。

以前にも、私は一度こんな事があつた。やはり紹介を貰つて大森の〇〇〇と云ふ所へ行つてみた。住込みで通信文を書くだけだと云ふ。やつとの事で尋ね當てたが、紹介所で聞いて來たとは大違ひでさつぱり要領を得ない。住込んでしまはなければ全然相談にならないと云ふのである私はをかしいと思つたけれど、とにかく明日までに返事をする事にして其處を辭した。ひと思ひに住込んでしまへば、事實は案外に信賴出來るものかも知れないが、又それと反對飛んでも無い落に懸るのかも知れないあの薄暗い玄關と褞袍の上に何だか光る羽織を引つかけた主人の上に私は今でもいろ〳〵と空想を描いてゐる。

二三遍、紹介の所傳票を貰つていはゆる求人申込の處あたつて見て、すつかり職業紹介所に見限りをつけた友人を、私でさへ三人もつてゐる。その頃、根氣がないのだなあと、内心その人を批難してゐたのだけれど、今、私の氣持はその友人に同情してゐる。

日も西に傾いて、會社歸りのお役人が、ぞろ〳〵と、みすぼらしい私の側を過ぎて行く。何時の間にか私も亦その人混みに混つて、疲れた心とからだを蒲田行きの電車にゆられてゐた。

或るタイピストの手帖から

くさのこり

某月某日

『女つて、ほんとうに責任感がないから仕方がない。

今日も、Kさんは休んでゐるぢやないか』

庶務のおやぢさんが、めがねの底から、私達女の座席をながめ乍らどなつてゐる。

ほんとうにK子さんにも困つたものだ。いくら一人娘だつて、チョイと風を引いたといつては休み、おできが出來たからといつては休む。

どうヒイキ目に見ても、辨解の仕樣もない。

一體女といふものは、ほんとうに責任感かうすい性質のものかしら？

職業をもつてたつ上からは、もつと眞面目に、自分の仕事を考へねばならないはづだ。K子さんも、遊び半分内職半分ならおやめなさるがいゝ。私共までがあやまられてしまふ。そんな分子が一人でも多ければ多い程、私共女の世界はせばめられて行くばかりなのだ。

某月某日

もううす暗い。かう毎日おそくなつてはやりきれぬ。タイピスト〳〵と尊敬されるんだか馬鹿にされるんだか。

アヽいやなこつた？

やつと席が空く。ヤレ〳〵と腰を下す。滿員の電車には、ほんとうに閉口だ。

鼻汁どめのチョビットした口髭を一かどの紳士らしく生やした若い男が、私の前にぶらさがつた。眞白なハンカチを、一寸、ポケットの間からのぞかせてゐるのは、如何にも輕薄才子らしい。さつきから變に私の膝頭ををしつけると思つてゐたら、とう〳〵自分の兩足の間にはさんでしまつた。

まあ、もう少し見てゐてやれと、知らぬ顔の半兵衛をきめこんでゐると片、方の手が、ソロ〳〵と下つて來て、風呂敷包みの上に重ねた私の手に、チョイ〳〵ふれ出した。

もうガマンがならぬ。

『私の膝をはさまなくとも、もつと後へよれるぢやありませんか』

かういつて、キッと其の男の顔をねめつけてやつた。隣近所の三四人が、一齊に其の男に注目した。さ

すがに若い男だ。赤い顔をして早々に下りていつた。年よりとなると、いやに圖々しいから一層にくらしい。

某月某日

お晝食の時間に、Aさんが、又いやなシナをしてやつて來た。化粧液でみがき立てた樣なあの顏を見るとゾツとする。

「Tさん、話があるの。今日こそ聞いてくれる?」

ツンと横をむいて、サツサと席を立つてやつた。

いゝ氣味?

某月某日

母の焼いて呉れたサツマイモをほゝばり乍ら、長々とねそべつて雜誌を見る。

細帶一つの氣樂さ!

晝間の令孃然とした自分がをかしく思ひ起される。女の生活を知らぬ男、ことに若い男といふものは、女の表裏をみわける目がない。女といへば、人形の樣に美しくて、オナラ一つしないものだと思つてゐるお目出たさ。

いつもいやらしいことをいふAさんに、私の此のグラシナサを見せてやりたい。一度にベソをかいてにげ出すことだらう。

某月某日

H氏のピアノ、W氏の舞踊、H孃の獨唱、これらが今夜の呼物らしい。

わざと二階の横隅に陣どつて、先づ一わたり眞下の有象無象をながめる。大部分は若い男と女、テカ〱と光らせた黒い頭を、右に左にと動かしてゐる。

お互ひに若い男、女を物色してゐるのだらう。私が來た時は、半分以上も空いて居た席が、十分程の間に八分通りつまつてしまつた。私の樣な職業婦人らしい女の白い顏も大分殖へた。が、大抵は若い男のつれがある。

オヤ〱、私のぐるりにもいつの間にか空席がなくなつてゐる。

「ネあなた、あそこの若い二人づれネ、女の方は××會社のタイピストよ」

「ハヽ僕等と同じ口かな」

後でこんな囁きが起る。物ずきにもふりかへつてみると、當世流の丸ボチヤの顏に、ぬつたもぬつた白壁の樣に。眞赤にさした頰べにの毒々しさ。

長竿の樣なノツペリ顏のつれの男に、ツバキでもはきかけてやりたい樣な氣がする。

一體、此の頃の若い男の氣が知れない。女とさへ云へば、目も鼻もなくなつてしまつて、いはゆるエライ

女の人の云ふ、精神美とかのきらめきよりも、粉黛美しく粧つたかういふ女をもつて、最上の美と心得てゐるのだもの。

あの男も、此の女にキスの一つもしてもらひたさに、肉の嗅をかぎまはる犬の樣に、後生大事とその大きなお尻にくつつきまはつてゐるのだらう。

愚なるものよ、汝の名は男なり？といひ度い。

幾百年、虐げられて來た私共女性の復讐の時は今なり、と呼ばう。

目ざめた女の復讐の武器は、或者には、男を翻弄する技巧となつて現はれ、或者には、男を叱咤操縱する働きをもたせ、或者には男の智能技術を奪ひとる手段をあたえて、今に全く此の世を女の天下にするだらう。

女よ、覺めよ。

そうして後、次の世にこそ男と女の完全な一體が出來上るといふものだ。

月給の進級に汲々たる男よ。

厚化粧の女の一笑に憂身をやつす男よ。

シツカリ、フンドシの紐をしめてかゝれ。

私は冷笑を浮べながら、此の男の顏を見てやつた。

初めて看護婦となつて

私たち三人は、三月二十五日に學窓を出て、自由の身となり本院に奉職して居ります。

一職業婦人として社會に在れば實際に今迄には想像だに及ばないことがいくらもあります。これは私共とは少し異る職業ですが當院には二名の女醫が居りますの、その人達は常に女なるが故に男醫師の人達から侮蔑の目で見られて居りました。そして男職員の厭な仕事（たとへば日曜日の當直の如き）は皆女醫に押し付けるのですもの、そして月給は男職の半額にも及ばないのです、

男子の方に言はせれば、女子は能率の上に於ては劣ると言ふかも知れないけれども特種の科を除いては寧ろ婦人の方が適當するのにも關はらず餘りに失敬だ、と大に憤慨してしまひました。私共看護婦に對しましても餘りに人格を無視した態度に出た時は決して盲從して居る必要はないと思つて居ります。私共職業婦人は團結して愈々強く生きねばならぬことを、社會に出て、初めて痛感しました。

（まさ子）

新刊紹介

婦人の書架

高群逸枝氏の「戀愛創生」

この一書、婦人問題では新女性主義を、戀愛については、一體主義を、ともに日本婦人がはじめてする世界への提唱である。

嘗ての日本における婦人運動の先驅者とも云はるべき多くの人々は、たゞ、外國の先驅者の主張そのまゝを根本の精神としてゐたに過ぎなかつた。勿論それをことさらに責むべき何の謂はれもないが、今この卷頭にあるところの「新女性主義こそ、世界に對して日本婦人のする、最初の提唱であらう。私は豫想する、日本婦人の活動を、知的聰明を――」

と云ふのを見ると、尚より以上の心强さをその意氣だけにも感ずるのである。

少くも時代の潮流は、嘗ての女權主義や女性主義を戀愛觀としてもプラトンダンテ等の精神主義の上にのみ停つてはゐない。同時にロシアを中心として起つた新女權主義や、ルーテルの肉慾主義の時代でもなくなつたのである。

現代では、それら過去に起つたあらゆる婦人運動の單に外へ向つてなされたことを必要としない。對蹠を男性とする單なる示威、單なる反抗の職分はすでに終つたのである。今後の婦人運動は、其の鉾先を婦人自身の内部にむけてなされなければならない。女性自身の實質を豐富にし、歷へられた知的聰明を、男性にまで平行させることこそ、まことの婦人解放への本道である。さればこそ、科學的社會主義を信奉する新女權主義の後を亨けて、今わが逸枝氏によつて生み出された新女性主義が、實に「科學的社會主義の彼方に、新に個性を語る」所以である

尚、氏は、エレン●ケイエミール●ルカ、其の他プラトン、ショペンハワー等多數の先覺者の言葉を豐富に引例して飽くまで現實的科學的立場を離れず、堂々と批判しその缺陷を指摘してゐる。戀愛上の一體主義に就いても、生物學的に細かに分析し分解して、その據つて立つところを說明してゐる。

廣く古今東西の文藝、哲學を其の隨伴として、氏の才筆は六〇〇頁に近い大册を、興味深く讀ましてくれる。何人も、氏の主張、その中心思想を、そして最も近代的な戀愛觀を知りたいと欲する方にはこの一書を全く讀破すべきを薦める。何となれば、この一書は、たゞに思想の筋書的な論理

ではなく、著者の只一つの見地から其の主張を、多くの實際的類例、文藝的古今の作物の上に、にじみ出さしたものであるからである

從つて讀者は、單に論理的にその主張を知るのでなく、論理的な過程を拔きにして、讀み了へた時、ふはりと頭の中にその中心思想を殘すことが出來る。それは丁度、藝術品を味はつた後、作者の人生批評が必然的に胸を打つのと同樣である。（山主生）

（四六判六百頁總布製定價貳圓八十錢　東京市神田區淡路町二萬生閣發行）

『月夜の喫煙』を讀む

新居格氏の創作については二月號の解放にいささか論じた。その中に『誰か新居氏の創作集を出すものはないか。そしたらモダンガールの創作者として花々しい廣告が出來、世の新らしがらんとする婦人は競つて買ひ、沈滯した文壇は一脈の新生氣を注入されるであらう』と書いておいた。

これが刺激をなして山崎米國伯爵が、この出版を思立つたのださうだから、新居氏は實にコーヒーの一杯位、僕に御馳走してもいゝのである。

さて私の立てた二つの豫想のうち、第一の新らしがりの婦人が競つて買ふだらうと云ふのは的中したかどうか？　だが、第二の、新生氣は確かに文壇に注射された『月夜の喫煙』一卷を讀んだものは、先づ何よりも其の清新な香に引きつけられる。

人間の興味は妙に崩壞的一面に動く場合がある『滅びゆくものは美しい。美しいが故に滅びるのだ』などと言ふ詩人の言葉は、此の崩壞興味の誇張である。

新居氏の作は今の所、此のブルジョア社會の崩壞面に専ら製作興味が向けられてゐる。モダーン・ガールカッフェを漁る知識階級などが比較的に多く語られてゐるのはそれだ。

併し私達は壇上に勇敢に社會革命を絶叫する新居氏の理想、抱負、信念をよく知つてゐる。あの新居氏の胸からは、資本主義社會の崩壞面でなく、來るべき社會の建設面が積極的に窺はれるやうな作が生れなくてはならない筈だ『月夜の喫煙』が頗る吾等の意を得た創作集であると共に、又甚しく物足らないのは、理論に見える新居氏の積極的な所が窺はれない事だ。

もつとも新居氏は序文でかう云つてゐる『收めたものの中で「鳥」一篇が解放戰線に立つ讀者の好みになるかも知れない以外は恐らく侮べつを買ふかも知れない。しかし誰にだつてあることを、またあり得ることを書いてはいけないと云ふ理由が何處にあらう。私には夢み易い性情がある。‥社會事實に當面して憤激するからと言つて、夢にまどはされる瞬間がないとは誰が言へやう』と。……

ともあれ非常に變つた面白い創作集で、現下過渡期に於ける新らしい知識階級の思想感情はあの中に結晶されてゐる。（木村毅）

（定價壹圓　東京芝區新櫻田町十九解放社發行）

これから毎月、婦人のために良書紹介の欄をつゞけます。寄贈書籍も大分ありますが、今月は頁數も尠いのでおひ〳〵とのせます。

五月號を讀みて

女子の啓發乃至指導機關の創生は安いとしても、其存續は、男子のそれに比して遙かに困難の業である。其れは吾人の經驗をもたない所であるが、今日までの婦人運動の反映(或意味に於て)とも云ふべき雜誌なり新聞なりの生命がハッキリとこれを吾人に訓へて居る。其意味からして、經營難を押切つて、つねに猛進して居る本誌に對して、敬意を拂つて居るものである。

　五月號に於ては、特に職業婦人運動はこれから如何な風に進んで行くべきか？　に對する十氏の回答は、意味深いものとして吾人の注意を集めたのであつて、就中山川氏の意見は、解放戰線に立つ吾人の味ふべき言葉であつた。已に參政權を男子と平等に獲得して居るポーランドや獨逸を始め米國、制限下に議員を出して居る議會政治本家の英國等に於ける婦人運動の過程を顧る時、其の何れの國もが、第一に教育と職業との二方面の解放に全力を注いで、根强い力を養ふ事の必要をハッキリと訓へて居ると思ふ。

　十九世紀產業革命以來、資本主義經濟の發達の程度に伴つて、婦人の經濟上の運動は深刻なものがあり、十九世紀末から今世紀初頭へかけて米國に於て起つた婦人による禁酒禁煙運動は、其目的の達成の必要上、遂に婦人參政權の要求の猛運動に誘つたのであるが、當時すでに米國に於ては、婦人辯護士二百人、記者九百人、說教者千二百五十人、女醫五百人、建築技師二十二人、教員に到つては殆ど女が占めて居たと云はれて居る。

　かやうに、政治的運動の起るまでには、平民國たる米國に於てすら、教育上職業上の解放に依つて、實際上社會的に婦人の力を示し、又國家的事業に就ても、相當に智力なり識力なりを完備せる婦人が、多數に社會の各方面に在つて訓練を受けて居たのである。

　英國に於ては、世界大戰當時に於ける女子の國家的功勞が婦人運動進步の上に大きな力を與へて、遂に千九百十八年の選擧法改正に依つて、婦人も參政權を得たのである。英國の參政權は、全人口の七分の一であつたものが新改正法に依つて、三分の一に擴張された譯である。即ち八百萬人が、新法に依つて倍數の千六百萬人となり、新增加八百萬人の中二百萬人は男子で、殘り六百萬人は女子に振當てられたのである。英國に於ける此の選擧法の大改正は、大戰と云ふ非常現象に因由する所が多い事は云ふまでもない。

　斯く歷史を省察する時、吾人は吾國の婦人運動も前者と大差の無いコースを辿るべきものでは無いかと考へられる。そして教育と教育に根ざした職業との解放は、より大なる婦人運動の理想實現を促進する所以であると思ふ。

　政治は經濟に據らねばならぬ。經濟上の婦人の解放運動は、資本主義發達の反面から來る結婚難、生活難に根ざすものなるが故に、眞劍な力がある、經濟上社會上の解放は、教育の解放と相俟ねばならぬ。現代の建築は部分として其の基礎工事に尤も多くの費用と尤も多くの時間を要する、所詮は我婦人運動も、如上の基礎開拓に力を集中するを得策となすべきではあるまいかと、思惟するのである。　(山崎義一)

研究

共働組合とはどんな働きをするのか

解説

わかくさ

共働組合の精神とするところは、今日のやうな資本主義に代はる、あたらしい經濟組織を立てゝ、生産も消費（分配）をも、狡猾な商人や資本家の毒芽にかけることなしに私たち自身の手でやつてゆかうとするのであります。

「生産者から消費者へ」

狡猾な工場主は「生産者から消費者へ」といふ廣告ビラを撒いて、よく粗製品をうりつけます。粗製な品物は問屋で扱つてくれないから、やむなく工場主は「生産者から消費者」の廣告ビラで客を釣つて賣りさばくのです。彼等か狡猾な證據には、そんな廣告ビラは一時限りで、粗製品の仕末がついてしまふと「生産者より消費者へ」の廣告のことは忘れてしまふのです。

この「生産者より消費者へ」を、ほんとうに忠實に實行しやうとするのが共働組合であるのです。然し、共働組合がこの理想を實現するためには、いろ〳〵順序を踏んでゆかねばならぬ。たとへば、都會の勞働者がストライキをして首切られたとき、その時得た解雇手當をみんなで出し合つて、工場を立てゝ、生産事業を初めることがよくありますが、その工場はみんな失敗してゐます。それは、彼等がその製品を、商人といふ資本家や問屋に安く賣らねばならぬからです。もし彼等の仲間に澤山の會員をもつ大きな消

費組合があつて、どん／＼その製品を買ひとつてくれるのであつたらその工場はきつと成功したでせう。從つて共働組合は、まづ需要品消費貨物の販賣からはじめて、それに成功して資金が充實したとき、工場で生産することに及ぶ――即ち、消費から生産へ、それから、同時に生産者より消費者へ、といふこの二つのモツトーを實行することになるのであります。

消費組合の誤り

一般には、消費組合といへば、消費者が日用生活必要品を共同で購入して安いものを手に入れる組合だぐらゐに考へられてゐますが、これは飛んでもない考へちがいで消費組合などいふ名稱があることがすでに大きな誤解のもとであります。これは、共働組合の運動が、一方で消費を司り、他方で生産を行ふてゆくのでなければなりません。

では共働組合とは何であるか。

共働組合は、英語でコーオペレーチブソサエチーといひます。他の各國でも、此の英語の言葉を其儘使用してゐま

すが、共に働く組合の意味であります。故に之を譯して、共働組合と稱します。我國では從來産業組合と名けてゐますが、これが抑々のあやまりで、我國の處々に設けられてゐる産業組合に、少しでも共に働く組合の精神が流れてゐませうか。殘念乍ら少しも其の精神が流れてゐぬ。

産業組合なら、商人であらうと資本家であらうと、地主であらうと、之を設けるに少しも差支がありません。ですから、我國で政府の役人が模範だと認める産業組合は、資本家や地主が經營してゐます。天滿の青物市場にも、東京の公設市場の商人の間にも、産業組合があり、もぐり高利貸も信用組合といふ産業組合を設けてゐます。畢竟産業組合といふは、外國の共働組合を、我國へ法律にして持て來る時に、名前を間違つて付けた、外國語の誤譯であります。

然らば共働組合とは何であるか、之を述べる前に共働組合の魁となつた英國ロチデール開拓店のことを略說しませう。

ロチデール開拓組合の小史

共働組合の精神は、世界の草分け、英國ランカシャイヤ州ロチデールの開拓者に求めねばなりません。共働組合そのものは、一層古くから存在してゐましたが、共働組合の精神を固めて、世界の先驅となつた者は、ロチデールの開拓者諸君であります。彼等は其精神を掲げて云はく、

一、我等は各人より一磅（約十圓）を醵出して次の計畫を行ひ、十分な資本を蓄積して、組合員の財産上の改善を圖り、其社會上と家庭に於ける地位を向上せん

一、我等は食料品、雜貨其他の物品を販賣する店を開設せん。

一、我等は組合員の爲に家屋を建築し又は購入せん。

一、我等は組合員中の失業者を收容して各種物品の製造を開始せん。

一、我等は土地を購入し若くは借入れて組合員中の失業者等をして耕作せしめん。

こうした精神を掲げたロチデールの先覺者等は、千八百四十四年、食料品や雜貨を販賣する店舖を開設しました。共働組合の精神に燃へる彼等は、其組合をロチデール平等開拓組合と名け、自ら世界の先驅者として其責任を盡さうといふことを誓ひました。

ロチデールの開拓者等が掲げた偉大なる共働組合の精神は、不斷の努力により、報酬を求めざる活動により、確實に實行されました。然らば彼等は何者でせう。彼等は實にハネル工場の虐げられた職工であつたのです。

當時の諺にもなつてゐたやうに、ランカシャイヤの寢床は、一年中温かかつたのであります。其意味は、ランカシャイヤ州各工場では、徹夜作業をなし、職工は二回交替で十二時間宛働くが、工場主は寄宿舍の設備を儉約して、二人に對し一臺の寢床しか用意せぬ爲め、早番の者が寄宿へ歸へれば、遲番の者が今出た許りの、まだ前の人の體温の殘つてゐる寢床へ入らねばならぬ。それゆへランカシャイヤ州の寢床は、一年三百六十五日温いと諺にされたのであります。それ程虐待された中に生れた共働組合の開拓者二十八人は、十圓の出資金さへ一度に持ち寄ることができません。それで毎週二片（約八錢）積んで行つて漸く十圓の

出資とし、初めて開拓店を開いたのであります。

組合の經營方針

ロチデールの開拓者等は、共働組合の精神を實現する爲めこ、左の方針を掲げて、嚴重に之を勵行しました。

(一) 開拓店の日用品賣價は市中の小賣相場とし、決して廉賣せぬこと。

(二) 販賣は凡て現金とすること。

(三) 組合の利益は一部を組合員の教育に充て、其餘の全部は購買高に應じて組合員へ返還すること。但其の返還は現金によらず一人、五十圓に遂ずるまで、貯金として組合へ預り、五十圓に達したる時は同人の出資金とすること。

(四) 組合の事務は當分の間組合員が分擔し、報酬を支拂はぬこと。

(五) 組合の從業者が自己の過失にて組合へ損失を生ぜしめた時は之を辨償すること。

即ち賣店では市中の小賣相場で賣るから、必らず莫大な利益がありますのに、役員一同無報酬であるから、組合員の教育費を潤澤に使ふても、組合へは、多額の剩餘が殘ります。その剩餘金は現金で返へさず、出資金にするから、翌年末には組合へ金があふれだす、之を聞いた職工諸君は我も我もと加入を申込みます。益々剩餘金が增加する。そこで其剩餘金を以て共働組合の精神を行ひます。家も建てれば、土地も買入れる、製造工場を設ける。失業者を收容する。正義平等を叫ぶ世界の開拓者となつて、共働主義の經濟組織を立てることになります。

こうした理想を持ち、こうした方針で進む處の無產階級の相互扶助的經濟組織を目的とする實際運動を共働組合といふのであります。

× ×

共働組合の精神は、資本主義に代はる新經濟組織の建設であります。そこには分配と生產か統一して一體となつてゐます。ロチデール平等開拓者では、役員は無報酬でした販賣係となつた青年ウ井リアム・ターパー君と、サミエルアスウオース君とは、永い期間の報酬として組合より與へ

られた物は、袖口のカウスを被ふカバーだけでありました一同無報酬で働き、その上に販賣品の附け落ちや、品物を毀損した時は、辨償をしてゐました。彼等の目的は、自己の慰安でなく、報酬でなく、日用品の廉買でもなく、目的は只だ新經濟組織と、生活の永久安定であります。彼等の一人が、後年卸賣共働組合聯盟の最高幹部となつた時、英國第一流の資本家が、莫大な報酬を以て支配人に招きました。其時に、私の目的は報酬でも地位でもない。私は人類愛の爲に自分の責任を盡すことであると、一言の下に拒絶したと傳へられてゐます。

仕入れは共働組合の職盟

ロチデールの開拓者等は、四方へ宣傳をしました。其組合の成功は、勞働階級を刺戟して、新社會を熱望する無產階級が、處々へ共働組合を作りました。

此等の共働組合は、單獨に仕入をしたでせうか。若し彼等が單獨に仕入をすれば、購買組合としては、一軒の大きな小賣組合としては成功が出來ませう。しかし、彼等の目的は、地上へ平等と幸福を建設することであります。彼等の心は人類愛に燃へてゐました。彼等は工場を建て、殖民地さへも設ける共働主義の理想を持つてゐたのです。消費より生產へ進み、分配と生產の統一した大組織を建設せんとしてゐたのですから。

我國の購買組合や、消費組合は、購買組合或ひは、消費組合それ自身が目的であります。ですから東京の共同會や共榮社や家庭購買組合の類は、單獨に仕入をして、俺の方が上手だと、馬鹿な天狗の鼻合はせをしてゐます。

然し諸君よ。私たちは、共働組合を作る時には決して單獨行動を取つてはなりません。ロチデールの開拓者諸君は率先して、各共働組合の聯合をしました。彼等は卸賣共働組合聯盟を作りました。而して各組合の資金を集中しました。數十萬の消費者が同一の旗の下に一致團結しました。分配と生產が一體となる大組織が、完全に成立しました。大宰相グラドストーンは嘆稱して『英國に行はれる凡ての社會運動の中で、共働組合運動ほど有益で幸福なものはない』と。我國の政府當局者は、大宰相グラドストーンの見

議と大度量に考ふる所がなければなりませぬ。

卸賣共働組合の創立は、千八百六十三年でありまして、主唱者はロチデール開拓組合の會長グリーンウッド氏を初め、ウヰリアムクーパ氏でありました、グリーンウード氏は次の原則を提案して、之が共働組合聯盟の原則となりました。

（一）所屬各組合へ送る共同仕入品は現金取引を嚴守すること

（二）共働組合以外のものを加入せしめざること

（三）聯盟取扱の品種に屬する物品は各組合に於て絕對に單獨仕入をなさゞること

（四）購入手數料として僅少の金額を物品に課すること

（五）聯盟資金は組合員數に應じ各組合より醵出すること

（六）加入組合は物品の運賃を負擔すること

嚴重に此精神を勵行した卸賣共働組合聯盟の事業は急速に發展して、實に左の數字に示すやうな收穫をみました。

年次	資金額（磅）	（購入高磅）
一八六四	二、四五五	五一、八五七
一八六五	七、一八二	一二〇、七五四
一八七〇	四〇、六五八	五〇七、二一七
一八八〇	五六五、八五四	三、三三九、六八一
一八九〇	一、四七四、四六六	七、四二九、〇七三
一九〇〇	三、一八七、九四五	一六〇、四三、八八九
一九一〇	六、五六六、六四一	二六、五六七、八三一
一九二〇	二七、八四四、三二二	一〇五、四三九、六二八

我邦に、未だこうした完全な共働組合聯盟がないことはほんとに殘念なことであります。

右は、岡本利吉氏の『農村と消費組合』に依つて書いたものです。啓明パンフレツトの一册になつてゐますから、悉しくはそれに就いてみて下さい、近頃消費組合運動——此にいはゆる共働組合運動の必要が非常に強く叫ばれてゐます。賀川豐彦氏は、獨立勞働協會で消費組合の運動に力を傾倒しやうと云つてゐられるといふことも聞いてゐます。

消費者としての婦人はこゝにこの共働組合運動の精神に理解をもつて、かういふ運動のために熱心に働くやうになりたいものです。

近刊豫告

婦人と勞働社主幹 奥むめお女史著

■■定價金五拾錢■■

我國に於ける

婦人參政權運動史

奥むめを女史は平塚雷鳥女史と共に、新婦人協會を創立して、我國に於ける新婦人運動の開祖であり、且つ終始此運動に携はつて居られる、我國婦人參政權首唱のオーソリチーであります。女史の高潔偉大なる人格と、卓越せる識見とは、其洗練せられた、明快華麗なる美文と共に、本書の上に躍如として居ります。新時代の新要求を理解せんとする者は、是非とも一讀しなければなりません。

新使命主幹 高野清八郎著

■■定價金壹圓■■

普選實施後に要求す可き

無產階級の新政策

現代政治の表裏に精通し、博大なる新經綸に富む著者は、普選の實施せられ、社會正義の確立を圖る可き重大なる時代の機運にも拘らず、政治に無智なる我國の學者思想家等は、無產政黨及び各種の政治團體を組織しても、悉く、國を毒し、國民を苦しめた、獰惡醜劣度し難き、既成政黨の亞流を眞似るに過ぎずして、全く政治の何んたるかを解せざる現狀に憤激して執筆したものである。其說く所一々無產者の苦しめらるゝ政治の缺陷を指摘し、溢るゝばかりの、温かき人類愛の見地より、無產者を救ふ可き新政策を說く事、誠に精緻該博、我出版界空前の大發見である。新時代に於ける政治上の新智識を得んとする者は是非本書を一讀せられよ。

發行所 東京市麴町區內山下町一ノ一 振替口座 東京 六九〇六九番 全國立憲青年同志會

大正十三年十一月二十二日 第三種郵便物認可
大正十五年五月二十七日 印刷納本
大正十五年六月一日發行（毎月一回一日發行）

婦人運動

第四卷 第五號

【定價二十五錢】

復刻版 婦人運動 [illegible] 5巻)

1990年6月25日 [illegible]

本体揃価格 50,0[illegible]

発行者 船橋 治

発行所 不二出版

東京都文京区[illegible]12

〒113 ☎[illegible]2)4433

印刷所 三進社

製本所 吉田製本工[illegible]

中性紙使用

乱丁・落丁はお取り替[illegible]す。